

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業)
授業科目名:教育課程と保育の計画・評価 英語表記:Kindergarten Curriculum and Childcare Theory ナンバリング:2301			単位数:2単位 (半期)講義 担当教員名:眞柄絵里 担当形態:単独
科目／系列	教育の基礎的理解に関する科目／保育の内容・方法に関する科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等／教科目	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)／保育の計画と評価		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 保育・教育課程の意義や編成方法を理解できる。 2. 乳幼児一人一人の発達や生活の実情を踏まえ、柔軟に具体的な指導計画を作成できる。 3. 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を理解し、自身の視点で計画を評価・省察できる。			
【授業の概要】 保育・教育課程の意義や必要性を理解し、幼稚園・保育所・認定こども園における保育者としての役割を考察する。指導計画は責任実習において不可欠であり、将来、保育者として実践することを念頭に、乳幼児の発達・生活を踏まえ、環境構成・援助等、内容と方法を具体的に作成する。実際に立てた指導計画に基づき、グループでマイクロティーチングを行い、保育を客観的に評価する視野を養う。更に、指導計画を適切に修正していくカリキュラム・マネジメントの意義を実践的に学んでいく。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】 1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。○ 2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。 3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】 1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。 2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。○ 3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。○			
【関心・意欲・態度】 1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。 2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。○ 3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。○			
【授業計画】 第1回:オリエンテーション ー授業の進め方の説明、保育・教育課程とは何かー 第2回:保育・教育課程の基本ー法令(幼稚園教育要領、保育所保育指針等)から読み解くー 第3回:保育・教育課程の歴史的変遷ー保育所保育指針・幼稚園教育要領の改訂の流れと教育観ー 第4回:幼稚園・保育所・認定こども園の理解 ー保育・教育課程の体系化、指導計画の理解ー 第5回:教育課程・全体的な計画と指導計画 ーそれぞれの教育課程と指導計画の実際ー 第6回:短期の指導計画ー週案と日案の編成方法と具体的事例ー 第7回:部分指導案の編成方法ー部分指導案の各観点の記載方法と具体的事例ー			【授業時間外の学習】 ・教科書を熟読して授業に臨み、授業後は授業内容や自分の考えをノートにまとめて整理しておく。 ・第8・9回目は、各自が考えた制作やレクリエーションの部分指導案を作成する。そのため、図書館やインターネットなどを活用して、事前に資料を収集しておくこと。 ・第11～第13回目は、円滑な保育実践が行えるように、各グループで討議を重ね、計画的に教材準備や模擬保育の練習を進めること。

第8回：年齢別の部分指導案の編成：乳児－乳児の部分指導案の配慮と留意点および作成－ 第9回：年齢別の部分指導案の編成：幼児－幼児の部分指導案の配慮と留意点および作成－ 第10回：保育評価の基礎理解－保育評価の種類、保育所児童保育要録と幼稚園幼児指導要録、PDCAサイクルによるカリキュラム・マネジメント－ 第11回：マイクロティーチングの準備－各班で模擬保育のテーマ設定および部分指導案の作成－ 第12回：マイクロティーチングの実施（1回目） －模擬保育の実践と反省、修正指導案の編成－ 第13回：マイクロティーチングの実施（2回目）－1回目の修正指導案に基づき、再度、模擬保育の実践と反省－ 第14回：マイクロティーチングの成果発表 －グループの成果発表と全体討議－ 第15回：授業のまとめ －学習の振り返り、保育・教育課程の課題と展望－ 定期試験：筆記	予習・復習には1～2時間程度の時間が必要である。
【授業の方法】 教科書や配布プリントに基づいて、講義、討論、グループワークを行う。模擬保育の準備の中で、図書館やICTを活用し、自主的に課題を遂行する。課題にコメントを入れて返却する。	
【テキスト】 『教育課程・保育の計画と評価』岩崎淳子・及川留美・粕谷亘正 萌文書林	
【参考書・参考資料等】 『0～6歳 心の育ちと対話する保育の本』加藤繁美著 学研 『幼稚園教育要領』（最新版）、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版）、『保育所保育指針』（最新版）	
【学生に対する評価】 定期試験の成績（50%）、課題（30%）、授業参画度等（20%）。ルーブリックを活用し総合的に評価する。	
【履修上の注意】 教育・保育課程を編成し指導計画を作成することは、教育実践における道しるべとして重要な意味をもつ。自身が保育者として実践することを見据え、積極的に講義に参加して欲しい。	
実務経験の有無：有	実務経験：元幼稚園教諭・元保育士
【実務経験を生かした教育内容】 私立幼稚園および公立保育園で担任としてクラスを運営してきた経験を活かし、具体的な子どもの姿や保育者の関わりなどをわかりやすく伝え、実践に活かせる保育技術を身につけられるよう授業を行う。	